

## 三菱自動車『トライトン』が2024-2025日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいて「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤隆雄、以下三菱自動車）は、1トンピックアップトラック『トライトン』が、日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会が主催する2024-2025日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいて、秀でた内外装デザインを持つクルマを選出する「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞したことを発表しました。三菱自動車の本賞を受賞するのは、昨年の『デリカミニ』に続いて、2年連続2回目となります。



2024-2025 日本カー・オブ・ザ・イヤー  
デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー 受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催

### 1トンピックアップトラック『トライトン』

今回の受賞理由は以下の通りです。

「昨年に続きデザイン賞は三菱が獲得した。前回は軽自動車のデリカミニだったのに対し、今回はピックアップトラックの世界戦略車、トライトンでの受賞である。スリーダイヤモンドのお家芸である4WDを、一見武骨な、しかしだからこそ新しいライフスタイルを想起させる造形としたことが授賞につながった。堅牢なフォルムに同社が『ダイナミックシールド』と呼ぶ大胆なフロントエンドのデザインが調和。難しいダブルキャブでありながらバランスの取れたプロポーションを実現している。」

『トライトン』のデザインコンセプト「BEAST MODE」（勇猛果敢）はパワフルで力強いデザインを目指し、ピックアップトラックに求められるタフさや力強さに加え、堅牢さを持ちながら俊敏さも併せ持つ堂々とした佇まいを表現しています。フロントには力強いパフォーマンスと、人とクルマを守る安心感を表現したフロントデザインコンセプト「ダイナミックシールド」を、力強く立体的なフロントグリルやフェンダーから繋がる力強い造形、それを強調するプロテクターで、ピックアップトラックに最適化しました。

インテリアデザインでは、走行時の車体姿勢の変化をつかみやすい水平基調で力強い造形の「HORIZONTAL AXIS（水平軸）」コンセプトを進化させたインストルメントパネルの採用や、プロフェッショナルユースを意識した乗員を保護するためのソフトパッドを要所に採用し、実用性を確保しながら幾何学的な造形とメタリ

ックを多用したハイコントラストでモダンな空間としています。スイッチ類は視認性にこだわり、ダイヤルやスイッチ類は手袋をしたままでも確実に操作ができるよう程よい節度感を実現。ステアリングホイール、グリップ、ドアハンドル類は握り心地や逞しさを追求するなど「MITSUBISHI TOUCH（三菱タッチ）」という考え方に基づいてデザインしました。

『トライトン』は、1978年に発売された『フォルテ』をルーツとする1トンピックアップトラックで、以来45年間で5世代にわたり約570万台を生産、世界約150カ国で販売してきた三菱自動車の世界戦略車です。今回、「Power for Adventure」という商品コンセプトのもとで開発を進め、内外装デザインからシャシー、ラダーフレーム、エンジンなどを一新し、2023年7月より生産工場のあるタイで販売を開始。世界約100カ国へ順次投入する予定で、日本へは2024年2月に導入しています。マリンスポーツやウィンタースポーツ、キャンプといったアウトドアアクティビティでの可能性を広げて、お客様の冒険心にお応えする、三菱自動車らしさを象徴するモデルのひとつです。

#### ■2024-2025 日本カー・オブ・ザ・イヤーの概要

45回目を迎えた今回の日本カー・オブ・ザ・イヤーは、2023年11月1日から2024年10月31日までに日本国内で発表または発売された乗用車を対象としています。11月6日に「10ベストカー」が選出され、11月26日の10ベストカー取材会を経て選考委員による投票が行われ、12月5日の最終選考会にて「2024-2025 日本カー・オブ・ザ・イヤー」を決定。同時に、「インポート・カー・オブ・ザ・イヤー」、「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」、「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」も決定しました。

<『トライトン』車種サイトはこちら>

<https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/triton/index.html>

以上